

活動報告：ぶんぶんひろば

1 活動のねらい

ぶんぶんひろばの活動は平成22年のセンター開設以来まる7年が経過した。ぶんぶんひろばの活動のねらいは3つある。1つ目は、就学前の子どもとその家族への子育て支援の場の提供である。2つ目は、本学で学ぶ学生の教育の場としての活用である。本学は「対人援助のプロを育てる」というコンセプトのもとに日々の教育を行っている。このセンターが位置する広島長東キャンパスには、大学の学芸学部(2学科)、大学院教育学研究科及び短期大学の3学科があり、学生の多くは教育職、保育職、栄養士等の対人援助職を目指している。また地域貢献も本学教育の特色の1つである。週2回子育て中の家族の姿を、キャンパス内で目の当りにすることは、学生たちにとってこの上なく良い体験となっている。それぞれの学科の目標を達成するためにこのセンターの存在が役立っているといえる。ねらいの3つ目は研究である。なかでも子育てに関する研究は昨今の社会状況から必要とされ、急がれるものである。各学科から選出された教員はそれぞれの研究課題を持ちより、この領域の研究が進むよう協力しあっており、今後の成果が期待される。

2 活動の内容

(1) 地域貢献としての活動

28年度の実施回数は68回であった。参加の状況を表1に示す。のべの参加人数は2053人であり、平均参加組数は13.7組であった。参加者の言葉によると、転勤直後で知り合いがいなかったときに非常に助かった、母親同士が情報を交換できた、夏の水遊びなど、最近の住宅事情ではなかなかできないことを、ひろばで体験出来る、等の意見がある。また、要望としては、毎日開催してほしい、日々の開催時間を長くしてほしい、大学が休業中も開催してほしい等がある。

(2) 教育における活用

週2回のひろば以外に、授業での使用は次のようであった。前期には演奏活動で6回(音楽学科)、造形表現で2回(子ども学科)、後期には、演奏活動で5回(音楽学科)、保育実践演習で2回(子ども学科)、栄養指導各論実習で2回(短大:食物栄養学科)、栄養指導各論で1回(食物栄養学科専攻科)、幼児英語指導法で1回(短大:保育学科)の利用があった。また、総合子ども学Ⅱ(子ども学科)では、子育て支援の場所として、子育て支援のための遊具や設備面の配慮を学び、「初めて体験した」「有意義だった」との感想が得られた。

「保育技術サークル」は子ども学科と短大保育学科の学生から構成されている。このサークルにより、手遊びと絵本の読み聞かせ活動が火曜日の昼休みに継続的に行われた。

(3) 研究への活用

28年度、広島文化学園大学は文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に選定された。テーマは「対人援助システムの構築と効果に関する検討」であり5年間研究が継続される。1年目のニーズ調査が実施され、ぶんぶん広場の利用家族の中の、最近の利用者200家族に連絡を取りアンケート調査を実施した。内容は「子育て中のストレス」と「求める子育て支援と受けた子育て支援」等についてであった。得られたデータはブランディング事業のまとめの中で発表された。



(文責：短期大学 保育学科 田頭 伸子)

表1 平成28年度実施回数と利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実施回数	5	8	7	9	3	3	8	7	6	7	5	68
利用組数	64	106	105	161	61	43	90	101	58	62	79	930
平均利用組数	12.8	13.3	15.0	17.9	20.3	14.3	11.3	14.4	9.7	8.9	15.8	13.7
利用者数	子ども	74	129	123	190	69	52	105	110	77	75	1108
	大人	67	110	107	162	62	44	92	102	58	62	945
	合計(人)	141	239	230	352	131	96	197	212	135	137	2053